



Journal

第19号
2026(R8)年9月24日
山形県立寒河江高等学校
新聞部

2年次MT中間発表会

更なる高みへ

挑戦と課題

9月10日(木)2年次総合学習(以下MT)中間発表が行われた。今年は昨年と違い体育館ではなく、1・2年次の各教室、三・四階学習室で行われた。また、山形大学、学校運営協議会、東北芸術工科大学、山形県村山総合支庁から6人の方が助言者として来校した。新聞部では2年次MT中間発表の意義や今後について報告する。

寒河江高校では、毎年秋に2年次の探究学習を振り返り、12月のMT発表に向けて、探究計画を見直す機会とすること、1年次に2年次の姿を見せ、来年の探究活動の参考

にさせることを目的に中間発表が行っている。2年次MT担当の渡部和生先生にインタビューを行った。Q2年次の発表を聞き感じたことは何か

堂々と発表する佐藤伶奏さん(2-1)

感じたことは、単独班が多いということ。私も寒高に来て3年目で、2年生のMTを持つのが3回目。今回は全体の活動という感じで担当している班はなくて、ひとりで行っているグループも多くその分チームも例年よりも広くなっている。色んなトピックの切り口を見つけた人が多いのが第一印象だった。今回は中間発表ということで最終発表は12月になる。そこまでに内容を深めていく検証内容を再検討してほしい。探究内容はいいと思ったグループもあったが実験が途中で出たという結果が出たというところもあった。今回は助言者の方からいただいたアドバイスも一度再検討していく必要はあるかと思う。面白そうなおトピックを調べて来年を見据えて行動していくことが大切になっていくと思う。

Q中間発表で生徒に期待すること、中間発表の意義は何か
1年次に限っては、来年が本番ということ。探究活動のメインとなる2年次の活動を見せることで来年に活かしてほしい。2年次には12月の発表を100%の力でできる機会に育て振り返る機会を設けている。例年、中間発表が一つのゴールになってしまっている生徒が散見されるので今年はそういう生徒が出ないように気を付けたい。

Q2年次の発表の問題点はどこか
正直、調べ学習で終わってしまったというテーマもあった。今回、助言者の方を招いて2年1組と2年3組に直接アドバイスもらった。発表の場を作り、発表者をこちらで選んだ。しかし、助言者の方から質問を受けること、答えが詰まる班もあった。今回仮説と検証というところに重きを置いて、評価シートを作った。声の大きさなどは、班ごとの差が見られたと思う。もう少し自分たちの手の届く範囲で探究を深められると、より得られる答えだったり探究手法についてうのかと手帳に思いつくのかなと思う。そもそもテーマのとりも検討してい

助言者2名の方に

講師を行う矢部寛明先生



く価値はあると思う。

質問事項
①発表を聞いてどう感じたか。
②発表でよかったところ
③発表を聞いていて、注目しているところ
④次の活動の改善点

質問事項は左記の通りだ。

東北芸術工科大学
企画構想コース
企画構想学科准教授
矢部寛明先生

①寒河江高校にはまだまだ掘り下げられるところがあると思った。
②みなさんが堂々と発表していたところ。
また、実際にインタビューをしたり、アポを取ったりと行動しているところもとても良いなと思った。一方で「本当にこのテーマでいい

のかと感ずる発表もあり少しやらされていえるように見えるところもあつた。③皆さんの鼻息に注目している。これは、気合や迫力、やる気が感じられるか、そして自分たちの軸をもっているかということ。また、発表がテーマに沿っているかどうかもみている。

④活動を通してどんなことに気づき、何を学んだのかを、自分たちの言葉でしっかりと語ってほしいと思う。寒高生、まだまだできる!

山形県村山総合支庁総務課企画西村山総務課主査杉本佳穂先生

①真剣にテーマに向き合っている、現状解決に取り組んでいた。仮説を立て、実際に検証を解決しようとしている。良かったと思う。

②きちんと下調べをして、事実を積み重ねて話をしているところ。エビデンスをはっきりさせて探究活動の方向を示しているところも良かった。一方で、全体的にあまり質問が多くなかった。質問が多くなると探究活動が活発になる。どうにか分かっていくのか、どこを改善したらいいのかというところが発表者に伝わり、もっと良

い探究活動になると思う。

②難しい言葉を使っている。わかりにくいところがあった。そのため、今後はできるだけ簡単な言葉を使い、相手に伝わりやすい説明を意識したい。ポスターも修正し、これからの探究活動で更に内容を深めていきたい。

助言者と先生方から多かった意見

改善点	良かった点
やらされている感がある	探究内容が良い
見ている生徒からの質問がない(積極性がない)	下調べがきちんとしている
掘り下げが浅い	調べ学習で終わらず実際に行動し探究していた